



特集

ベンチャービジネス

早稲田大学では、ベンチャー企業の創出・育成を支援するアントレプレナーシップセンターの設置、起業家教育プログラムの提供など、起業を志す学生、教員、卒業生の支援に力を入れている。起業への機運が高まる現在、大学での取り組みを紹介するとともに、さまざまな分野で起業し、成長を続ける校友の姿を紹介する。

「当たり前」のことですが、防犯用のブザーや笛などは、すぐに使えないと、いざというときに役に立ちません。それにもかかわらず、バッグの底に入っていて取り出せなかったり、自宅に置き忘れたり、ブザーの電池が切れていたりするのはなぜでしょう」と、株式会社grigryの石川加奈子さんは問う。

「テクノロジーが発達しているのに、防犯・護身用品は変化していないのはおかしい。防犯・護身用品を持ち歩くのを忘れるのなら、逆に、常に持ち歩くものに防犯機能を持たせればいいのでは」と発想を転換して生まれたのが、多くの人が持ち歩く「お守り」に着想を得た、「omamolink(オマモリンク)」だ。

お守り型のケースに防犯機能がついていて、振る動作により衝撃を与えるだけでブザーもしくは自動録音機能が作動。さらに、事前にアプリに登録した緊急連絡先である「みまもりびと」にSOSが発信され、位置情報が共有される。誤作動防止プログラムも搭載されていて、軽量。これならバッグに入れたままでも利用可能だ。持ち歩く物に「ときめき」が必要と考える石川さんは、和柄、リパティー、ちりめん、西陣織の専用ケースも併せて販売する。

安全・安心の機能を備えた「omamolink」だが、ものづくりの経験も資金もなかった石川さんにとって、実現までは苦労の連続だった。

「金・人・技術がなく、アイデアのみある状態でした。ビジネスコンテストに優勝して、事業への信用を獲得し、資金はクラウドファンディングやYouTubeの番組出演で得ました。この番組は、審査員の投資家に事業計画をプレゼンテーションし、評価されると投資が受けられるというものでした」

石川さんが、さまざまな手段を駆使して事業化に邁進したのは、社会に必要な製品だからという思いだけでなく、自身が性暴力の被害を受けたという過去があるからだ。「『omamolink』の普及は、いつまでもつきまとう忌まわしい過去から、自分も救ってくれるのです」と語る。

「omamolink」は、ホテル、エステ、訪問医療などの接客の現場で採用されるケースも増え、その役割を広げている。

また、日常に潜むリスクから自分や大切な人を守る活動を「守活」という言葉で表現し、ウェブメディア、ハンドブック、YouTubeチャンネル、イベントなどで啓蒙活動にも取り組んでいる。



「omamolink」のふたを開けると空間があり、御札や家族・推しの写真を入れて自分だけのお守りにアレンジが可能。専用ケースも多くの種類を展開



「守活のウェブメディアでは、心と体を大切にし、自分らしく生きるためのさまざまな情報を提供。2022年に制作した『守活ハンドブック』では、被害から身を守る方法、被害があったときに心を守るための方法などを掲載している

代表取締役・CEO
石川加奈子



いしかわ・かなこ / 1981年千葉県生まれ。2004年法学部卒業。大学卒業後、内閣情報調査室に入職。13年に渡米し、International Institute of Global Resilience (IIGR) にて総務開発部長を務める。19年、グロービス経営大学院大学修了、MBA取得、株式会社grigry創業。

株式会社grigry

〈課題〉

身の危険が迫った時に、
守る方法は？

持ち歩けるお守り型の高性能護身用品で
危険からあなたを守る

防犯・護身用プロダクトのアイデアを事業化するために2019年に創業された株式会社grigry。「お守り」と「テクノロジー」を掛け合わせた新しいタイプの防犯・護身用品「omamolink」を22年に販売開始。防犯意識を高めるための啓蒙活動「守活」も並行して行われている。「omamolink」で22年度グッドデザイン賞を受賞。



サイズは約6センチメートル×4センチメートル×2センチメートルで、重さはわずか36グラムと軽量の「omamolink」。振動を検出してブザーや録音、SOS発信(チップ型のSIMを内蔵)などの護身機能が作動する。小型ながら充実した機能を備える

緊急時には、登録しておいた「みまもりびと」にSOS位置情報を通知。駆け付けたり、110番、119番通報をしたりすることが可能



セキュリティ

SECURITY